



**イベント掲載申し込み
随時受付中!**

KANICITY X 365days
イベントカレンダー

今日はどこに行く?

QRコード

可児市ふるさと広報大使 塚本明里さん

可児 イベント 365 検索

市のイベントに限らず、民間事業者や各種団体が主催するイベントも掲載しています。

図書館だより

図書館本館 (広見) ☎5120
帷子分館 ☎8530
桜ヶ丘分館 ☎3473

開館時間
本館 火～金 午前10時～午後7時
土日祝 午前10時～午後5時
帷子・桜ヶ丘分館 午前9時～午後5時

休館日
本館・分館共通
毎週月曜日、27日(金)

※帷子分館は、15日(日)は臨時休館します。

展示のご案内 (本館)

こどもの読書週間特集 この本なんだ? クイズであてよう本のなまえ展
クイズで楽しむ絵本と児童書の展示です。本のあらすじやキャラクターから、題名を当ててくださいね。
こどもの読書週間は、4月23日～5月12日です。

期間 5月26日(木)まで

かっ子タイム 工作教室「びっくり箱をつくらう!!」

楽しい工作教室です。先生たちが丁寧に教えてくれます。

日時 6月18日(土) 午後2時
場所 図書館本館
講師 工作☆ふしぎな泉
定員 20人(親子での申し込みも可)
申込開始 5月26日(木)
持ち物 はさみ

新しく入った本

「我々の恋愛」
いとうせいこう / 著 (講談社)
「真説真田名刀伝」
東郷隆 / 著 (角川春樹事務所)
「日本の火山」
山と溪谷社 / 編 (山と溪谷社)
「虫たちと作った世界に一つだけのレモン」
河合浩樹 / 著 (朝日新聞出版)

一般書

「よくわかる選挙と政治」
福岡政行 / 監修 (PHP 研究所)
「きょうはかせでおやすみ」
パトリシア・マクラクラン / 文
ウィリアム・ベン・デュボア / 絵
小宮由 / 訳 (大日本図書)
「たらふくまんま」
馬場のぼる / 作・絵 (こぐま社)

児童書

広報番組のお知らせ

ケーブルテレビ可児で

いきいきマイタウン

5/7(土)～13(金)

ようこそ!市長室へ

5/14(土)～20(金)

ふるさと応援寄附金

5/21(土)～27(金)

簡単!山ごはんレシピ

Kルートで行こう!

5/28(土)～6/3(金)

好きなのはカニダー

放送時刻
月～金曜日 7:00・17:00・19:00・21:00
土・日曜日 12:00・19:00・21:00

4月から
放送時刻が
変わりました。

FMららで

可児市役所からこんにちは

5/5(祝) 11:20～

ようこそ!市長室へ

5/12(木) 11:20～

可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」

5/19(木) 11:20～

ふるさと応援寄附金

5/26(木) 11:20～

可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」

おはよう可児市役所 月～金曜日 8:00～

発見!可児の魅力 毎週土曜日 10:00～

もう一度確認を!災害時の情報収集

すぐメールかに

あらかじめ登録した携帯電話などのメールアドレスに、災害や気象に関する情報を配信します。そのほか、暮らしに役立つ市政情報も配信しています。

登録方法はコチラ



「防災無線」電話で確認サービス

専用電話番号 ☎0574 (62) 1548

防災無線で放送された内容を放送後に電話で確認することができます。

※通話料金が必要です。
※防災無線放送後、24時間経過すると消去されます。



可児市史第3巻より



海老衣子 (1901～1936)
久々利生まれ。日本女子大学校卒業後、婦人之友社に入社。その後、実業之日本社に移り、「婦人世界」や「少女の友」の記者として活躍。1933年(昭和8年)、現在の母子健康手帳の先駆けとなる「ベビーブック」を出版。

母子健康手帳の母・海老衣子の回想

1933年(昭和8年)、ついに「ベビーブック」が出版されました。つらい体にむち打って、没頭してきたこの本を、晴れて世に送り出すことができ、感無量です。

1901年(明治34年)、私、海老衣子は可児の久々利村に生まれました。両親の理解もあって、

単身上京し、日本女子大学校で学びました。有名な女性実業家、岡浅子さんなどが創立に尽力され、奇しくも私が生まれた年に開校した日本初の女子大学校。高い教養を身につけ、自立した女性の先駆者となるべく、決意の旅立ちでした。

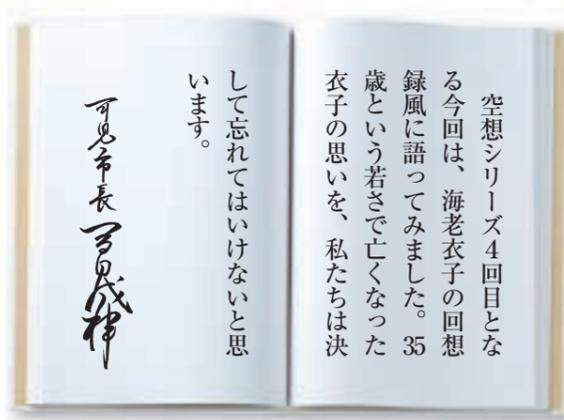


ベビーブック (可児郷土歴史館所蔵)

子さんを持つ方々と接する中で、子育てに関する女性の切実な思いをひしひしと感じました。そこで、子育ての不安を少しでも和らげながら、子どもの成長を記録する、楽しさを抱ける、そんな本を作ろうと決心しました。そして生まれたのがベビーブックです。

独身で仕事に没頭してきた私ですが、一方で、結婚し子どもを生ま育てることも望んでいました。その願いは叶いませんでしたが、私の思いは女性たちに届き、何度も増刷するほどのヒット作品になりました。少しはお役に立てたのではと、自負しています。

私はこの世を去ってから、ベビーブックに関わる変遷を見守ってきました。戦後には母子健康手帳が発行され、妊娠から出産、産後の育児まで、子育てに寄り添う日本独自の素晴らしい仕組みへと成長してきました。最近では、スマホなるもので手軽に子どもの成長が記録できる「かっ子ナビ」が始まったことを知りました。私の故郷で積極的に進められている「マイナス10カ月から つなぐまなぶ かかわる 子育て」の一環とのこと。妊娠期からの切れ目



のない子育て支援の拠点が、平成30年春には可児駅前が開館する予定で、その一角に私のベビーブックを展示していただけると聞きました。

可児で生まれ育った私のことを知っていただき、少しでも子育てに奮闘する皆さんの励みになればと願っています。故郷の地で、子育てに対する私の思いが引き継がれ、進化していくことをとても楽しみに、これからも見守っていきたいと思っています。